

a、社民、労大兩黨の合同問題

本縣に於ける舊社民、舊勞大兩黨は多年培はれた感情的對立の爲め、昨年七月社會大衆黨の結成に當り、社民福岡縣聯は單獨に社大當縣聯に改組して勞大黨の合同提議に應ぜず、遂に本年一月勞大黨亦社大縣聯の看板を掲げたので茲に二つの社大縣聯が相對立するの奇現象を呈するに至つた。然るに舊勞大黨は社大縣聯への改組を行つたとは雖も黨本部との連絡密接ならず、即ち本年十二月の第二回年次大會に對し代議員の派遣をなさず議案を提出せず、且つ黨費を納入せざる趣にして、其の消極的態度は社大縣聯としての存在を自然否認せらるゝの外ないであらう。

b、市町村會議員總選舉

福岡縣下に於ける本年施行の市町村會議員總選舉は、十市

三百三ヶ町村中三市二百七十四ヶ町村に行はれ、且つ無産團體候補者は三市五十一ヶ町村に亘り百三十五名を擁立して八十一名の當選者を出したのである。之を昭和四年の當選者五十六名（立候補者百二十七名）に比すれば二十五名の増加であるが、其總得票數に於ては一萬三千三百八十四票にして前回に比し六百六十四票の減少を示し、寧ろ成績不良なりと云はねばならぬ。今團體別成績を見れば次の通である。

○各黨派別當選者數調（一）内は候補者數を示す

黨派別	市	町	村
舊社民黨	四（一〇）	一（四）	一（四）
舊勞大黨	五（七）	六（九九）	一〇（一四）
國社黨	一（六）	三（五）	二（三三）